



発行 真宗大谷派 高山教務所
 発行者 出雲路 善公
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
 ☎(0577)32-0776
 *毎月20日発行 50,000部
 三市一郡無料配布
 印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

心に寄り添う

羽部 玲子



（略歴）
 一九五八年、岐阜県郡上市生まれ。
 岐阜教区第十五組安楽寺坊守。臨床宗教師。岐阜教区教化委員。

今、世の中は、日々大きな変化の中にあります。昔は、20年・30年という単位で変わっていたのですが、今は1年・2年、時には半年というような速さで変わっていくものがあります。その変化は私たちの生活を便利にし、メディアの発達により情報が得やすくなり、いろいろなことを瞬時に知ることができるようになってきています。

しかし、どんなに社会が発展し、便利になり、多くの情報を得ても、私たちは「死」の問題から離れることはできません。「死」によって大切な人を失うこと、つまり「死別」から引き起こされる深い悲しみ、嘆き苦しみの心の状態を「悲嘆」と言います。

最近、悲嘆を抱えた人への援助（グリーフケア）が、注目されるようになってきました。なぜ今、悲嘆者への援助に目が向けられるようになってきたのでしょうか。

考えられる大きな要因の一つとして、人間関係の希薄さが進んでいることが挙げられるように思われます。希薄化により、悲嘆者に対する社会の理解が乏しくなり、ケアする人が少なくなってきたからではないかと。

以前は、大切な人、かけがえのない人と死別した時、家族や親せき、友人や地域の人々等、悲嘆者の側には寄り添い支えてくれる人がいました。しかし、現代の社会は核家族化が進み、家族構成の人数が少なくなったこともあり、家族内で癒し合う機能は減少しつつあるように思われます。

活かすためには、他者からの支え、すなわち、悲嘆者への「寄り添い」が必要とされます。「寄り添い」とは、悲嘆から立ち直ることを求めるものではなく、一方的に励ましたり、悲しみや苦しみを解決するための答えを出すことでもありません。むしろ答えが見つからないからこそ、長く寄り添っていくことが必要とされるのです。悲しみや苦しみを無くすのではなく、それらを抱えやすくし、生きる力や意味を見出していく。そのように生き方を支えていくことが求められます。

寺院も、葬儀、毎七日をはじめ、月忌、年忌等、読経とともに悲嘆を抱える人の話を聞き、その悲しみを受け取り、心を寄り添わせていく、そんな時間を大切にしてきました。しかし今、仏事の簡素化が進みつつあります。だからこそ、私たちは今一度、身近な仏事を再確認していくべきではないかと思われまします。

親鸞聖人は、仏の教えを仰ぎ、共に悲しみ、共に苦しみ合うものを「御同朋」と私たちに呼びかけてくださっています。悲嘆者に心を重ね、共に生き合う、そんな「寄り添う」ことを大切にすることが心より願われます。

発想になっていきます。ですから、他人が自粛していないと差別・排除の動きとなります。監視や密告、いやがらせ、こともあろうに医療従事者の近親者への差別・いじめにいたっては何をかいはんやです。このような泥沼の展開となってくる「要請された自粛」ではなく、自分を取り巻く環境を広い視野で考え、自らの現在と未来に責任をとる“自粛・自重”でなければならぬし、そうやっていくことを願うことです。

聞くところによると、この在宅自粛中に、本来の“自粛”の芽生えが出てきたように感じます。その一つとして、整理して不要とされた沢山の物が、リサイクルセンターに運びこまれたというのを聞き及びます。それはつまり、かねてより、気になりつつも整理できずにいた物が身の周りにあり、それに対して、捨てる物と捨てるてはいけない物との判断、分別作業が起きているということです。それは同時に、“自身のものの考え方やあり方”について静思する機会を得ているということでもあります。

日ごろから何を後まわしにし、あるいは何をおろそかにしてきたのかを内面から問い直してこそ、“自粛・自重”という本来の意味を理解し、人生を大切に生きる方向が見えてくるのではないのでしょうか。

しかし、自粛・自重といいますが、地域社会の常識というものの中に生きている我々の事なかれ主義、別にいえば問題なく穏便に過ごすことに慣れている発想では、いくら自粛・自重と申しましても、慣れの常識の範囲内です。そんな私たちが自粛・自重のヒントを得て、深めていくためには、常識にとらわれず一歩踏み出した人達の言葉に接することです。そのチャンスが今の時ではないのでしょうか。（三島多聞 高山別院 輪番）

～ご坊さまの掲示板～

他人の目から見た自分を気にするあまり
 自分のこと ちゃんと見つめてあげるのを忘れちゃうなんて
 変だよな 変だよな

小泉吉宏

コロナ感染に思うこと

全世界で新型コロナウイルスが猛威をふるって半年近くになります。お隣の韓国では、感染終息に近づいて外出を緩和したとたん、また集団感染が起きました。米紙USAトゥデイ（電子版）によれば、“米国で「集団免疫」獲得まで事態が収束せず、秋以降に第二波が襲った場合、現時点で感染を抑えた韓国などが打撃を受けるとの米研究者の見方を伝えた。”（5月13日岐阜新聞）とありました。自国の感染が終息したからといって、ワクチンが開発されないうちは安心できないということです。

暫く続くであろうコロナ感染は、種々の問題を惹起しています、政治・経済・文化（教育、芸術、宗教等々）、またスポーツを始めとするあらゆる分野で壁にブチ当たっております。今後、改革や変化が進むことになるでしょう。信用の象徴とされる印鑑社会の日本で、「ハンコ不要」という言葉まで出てくるのですから。

過日、テレビで長崎大学の教授が“コロナ感染は世界が変わる先駆け”と早い段階でいっていました。また、池上 彰氏のテレビ番組では、国のあり方の変化を歴史が証明しているといっている、奈良の大仏建立の話をしていました。奈良の大仏の建立は、天然痘終息祈願として建てられた。そのことにより国民の働く意欲を出させるために開墾した土地は個人の所有にするという政策を立てた。すると所有した土地が荘園という形をとり、それを守るために武士が台頭してきた・・・、という具合に、コロナによって変化や改革が始まってくるであろうと予測していました。しかも一国家の感染ではなく全世界に広がっている感染ですから、産業改革のような大きな変化の流れを作ってくると思います。

これから本当の“自粛”が始まると思います。今までは「要請された自粛」です。自粛は自分の意思で自重することです。要請されることではありません。感染が深刻な状態になればなるほど、自粛しない国民が悪いという

☎テレホン法話(0577)342313 ☎5月21日～31日：堤唯見氏「浄願寺」 ☎6月1日～10日：長尾惇也氏「法正寺」
 ☎6月11日～20日：宮川宏志氏「寶林寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

家族で話そう

仏教×グリーンフケア⑧

尾角 光美

コロナと「あいまいな喪失」

コロナ禍において、世界では感染者が410万人、亡くなられた方が28万人を越え、日本でも1万5000人以上の方が感染し、621名の方が亡くなられています(5月11日時点)。数字ばかりが目立ちますが、このお一人おひとりには名前があり、誰かのお母さんやお父さんだったり、息子・娘さんだったり、おばあちゃん・おじいちゃんだったり。その家族とも最後に会えないまま、さようならを告げられないまま、お別れせざるを得ないような現実が起きています。

最後の姿を見ることなく、ご遺骨になって帰ってきたら、どのよう感じるでしょうか。グリーンフの世界では「あいまいな喪失」という概念があります。そこに遺骨はあれど、もういない。いないけれど、失った実感が無い。喪失が不確かな状況について「あいまいな喪失」といいます。

それは、ご家族が認知症になられた場合や、行方不明のまま会えていないといった状況でも生まれてくることです。人は、○か×か、白か黒か、はっきりしているものを求めたくなります。あいまいなものを抱えていることは、エネルギーがいるのです。

あるご遺族は手元に帰ってきたご遺骨に対して「本当にあなた

なの!」と言葉をぶつけたそうです。あいまいな喪失から生まれてくる苦しみに「そんなことを考えてもしょうがないじゃない」といった慰めの言葉は通用しませんが、複雑な悲しみ、喪失感に對してできるのは、まず「ままだに」受けとめることです。

そして、あいまいな喪失に有効だとされるのは、「どちらも/同時に」という考え方です。失った感じがする気持ちがあると同時に、まだ実感が無い感覚もある。そのどちらもあつていい。どちらかに決めきれない、感じきれない自分をままだにゆるすことからはじめてみることで。

儀礼の力

ここまでは、グリーンフケアの世界での取り扱ひ方です。長年、心理学者や精神医学に関わる専門家が培ってきた知恵のようなものだと思えます。それでは、「あいまいな喪失」に対して、仏教にできることはなんでしょうか。端的にひとつの答えを指し示すとすれば、「儀礼の力」ではないでしょうか。

もちろん、葬儀をしたからすぐに「はい、落ち着きました」「亡くなった実感がわきました」ということにはならないと思えます。内田樹先生と釈徹宗先生が書かれた『はじめたばかりの浄土真宗』という本の中に、お父さまを亡くされた大学生のお話が出てきます。

急死されたため、実感もわかず相当なショックの状態でした。

「どんな言葉も耳に入りませんでした。何を見ても無色のようでした」と感じていたといいます。そんな彼女が「でも少しだけ自分の身体の感触が戻るときもありました」と語るのですが、それがどんなときだったかを尋ねると、自分の家に行くお坊さんと一緒にお経を読んでいるときだったと答えたそうなのです。

生きていることを実感

宗教儀礼は、脳に対して説得を試みようとはしません。「失ったのだから納得しなさい」といったことを無理に実感させるものはありません。でも、結果として、彼女のように、身体の中に生きる感覚を取り戻していくということがあるのだということはとても意義深いことです。

大切な人が亡くなった事実を実感するにも、まずは、自分が今ここに居ること、生きて居ることを実感しないと始まりません。儀礼は何のためにあるのか、というのを観念的に考えるのではなく、こうした身体感覚として、確かなものを私たちに届けてくれるというところを、大事にしたいと感じました。

もちろん「儀礼は死を受け入れるためにあるのだよ」と言いたくなるのが人間として自然かもしれませんが、それは誰かから教わるものではなく、一人ひとりが、実感と共に見出し、受け入れたいと願っています。

次回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑬」です。

コロナウイルス感染拡大に伴う行事の実施状況

6~8月の教区・別院行事の実施情報が次のように更新されました。高山別院における御命日の御座は、ご参拝をご遠慮いただきますが、読経のみ本堂にてお勤め(内勤め)とし、佐奈姫忌についても同様とさせていただきます。

《中止》

- 高山別院 親鸞聖人ご命日法座 (5月28日)
- 高山別院 三日のご坊 (6月3日)
- 大谷婦人会 定例法座 (6月11日)
- 高山教区 婦人研修会 (6月25日)
- 佐奈姫忌法要 (6月26日)
- 児童夏のつどい (7月下旬)
- ご回壇 (7月)
- ※毎年7月から各寺院にて勤まりますが、本年は中止となりました。
- 真宗本廟 子ども奉仕団 (8月)
- 飛騨学場 (8月1日~5日)
- 暁天講座 (8月1日~5日)

本醸造 飛騨の華

平田酒造場
高山市上二之町43
TEL 32-0352

オンデマンド印刷

フルカラーの小部数の印刷に対応します

株式会社リブプロ

住所:高山市桐町七二五〇三
TEL:0577-351010

お仏壇 ほりお

仏壇工芸

高山市三福寺町369-7 TEL:0577-33-6686

6月11日(木) 大谷婦人会

コロナウイルス感染防止のため中止と致します。

新宮墓苑(墓地)空あり1区画40万円

永代供養墓 予約受付中 生前予約可

連絡:管理会社 南大和 0997-373033
墓苑所在地 高山市新宮町566番地1

提灯製作 見積無料

祭提灯のほか、神社・仏閣で御入用の各種提灯も取り扱っております。

通常、製作開始より2~3週間程度で納入させていただきますが、納期を含めてご相談ください。

雨に強い楽々提灯展示販売の店

あかりの蔵 株式会社 高山提灯

営業時間:10:00~17:00 定休日:火・水曜日
県の休業要請に協力しております。

HPアドレス: https://takayamachochin.com

Webで検索 あかりの蔵 高山提灯 検索

所在:高山市本町4丁目33 電話:090-1629-8535

リフォーム 補修工事 クリーニング 墓じまい

お墓の悩み、ご相談ください。

ご相談・お見積り無料!

FAX 33-9763
高山市新宮町 2498-1
新宮小学校前

株式会社 奥田石材

TEL 0577-33-9601

印刷物全般・自分史製作

山都印刷株式会社

高山市西之一色町二丁目九〇一八
TEL:0577-311495

スナック 卯木

うづぎ

〒506-0017
高山市朝日町13-3
☎0577-36-0030

総合建設業

カ 奥原建設株式会社

高山市総和町三丁目九〇
TEL:0577-331076

ブックス・アイオー

NHK宗教の時間テキスト
「観無量寿経」をひらく
NHKテキストコーナーで販売中!

TEL:0577-341768

こすぎ

隙間スペースに設置する納骨堂好評です。

ACT

岐阜県高山市本町3-60
0577-321745